

平成27年度 外科手術実績

2015年度も1年間に205例の手術を行い、うち19例は緊急手術でした。手術件数はほぼ前年と同様で、内容は1) 鼠径ヘルニア60例、2) 胆嚢結石症28例と、鼠径ヘルニアと胆嚢結石症手術で半数近くを占めていますが、3) 大腸癌手術16例が地域連携、開業医の先生方からのご紹介で昨年の2倍に増加しました。次いで多かったのが4) 自然気胸に対する胸腔鏡下肺部分切除10例、5) 下肢静脈瘤に対するストリッピング手術8例でした。良性疾患に対する手術が多い中、癌に対する高度な手術も行いながら、その他、胸腔鏡下肺部分切除術や下肢静脈瘤手術、乳癌手術、痔核手術など幅広く行っています。

当科で手術の多い鼠径ヘルニア、胆嚢結石症手術の内容はこれまで述べさせていただくことが多かったのですが、昨年は大腸癌手術が増加し3番目に多い手術となりましたので、昨年当科で施行した大腸癌手術について今回はとりあげたいと思います。

昨年度の大腸癌16例の内訳と術式は、盲腸癌3例に対し回盲部切除1例、結腸右半切除2例、S状結腸癌3例に対しS状結腸切除2例、(穿孔例で)ハルトマン手術1例、直腸癌9例に対し低位前方切除7例、人工肛門造設2例に、大腸癌術後の進行増悪に対し腸切除を行った1例でした。手術は、全身麻酔+硬膜外麻酔下に開腹操作で行っていますが、術中出血による輸血例はなく、胃管やドレンはほぼ留置せず、いずれの症例も吻合部縫合不全や感染(創部感染、腹腔内膿瘍)等の合併症は1例もなく経過良好で、術後の入院期間も短く、平均術後10.9日で軽快退院されています。最短は盲腸癌に対し回盲部切除を行った症例で術後7日で軽快退院されています。

この積み重ねが開業医の先生方からのご紹介の増加になってつながっているものと思い、今後も引き続き努力を積み重ね、昨年合併症0できたものを今後も続けていけるようさらに気を引き締めて臨みたいと思っています。

手術実績一覧

幽門側胃切除(胃癌)	胃全摘(胃癌)
回盲部切除術(大腸癌)	横行結腸切除(大腸癌)
結腸右半切除(大腸癌)	ハルトマン手術(大腸癌)
S状結腸切除術(大腸癌)	直腸低位前方切除(直腸癌)
人工肛門造設術	人工肛門閉鎖術
痔核手術(根治切除術)	直腸粘膜脱手術
腹腔鏡下虫垂切除術	開腹虫垂切除術
腹腔鏡下胆嚢摘出術	開腹胆嚢摘出術
胆嚢摘出、総胆管切開、Tチューブドレナージ	腹壁癒痕ヘルニア手術
鼠径ヘルニア根治術(ダイレクトクレーゲル法、プラグメッシュ法)	下肢静脈瘤手術(ストリッピング)
大腿ヘルニア根治術	乳腺腫瘍摘出術
胸腔鏡下肺部分切除(VATS)	陥入爪根治術
CVポート挿入留置	
皮膚、皮下腫瘍摘出	